

教 育 研 究 業 績

氏名 小高佐友里
学位：博士（心理学）

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド
心理学，教育学	学校臨床心理学，特別支援教育，学校危機予防教育
主要担当授業科目	スクールカウンセリング入門，臨床心理学特講 A，臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ，心理実践実習Ⅰ・Ⅱ・A

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1) 心理学基礎実験	2008年4月1日～ 2011年3月31日	法政大学現代福祉学部において，心理実験の実習を行い結果に基づくレポートの作成方法について指導した。
2) 心理学	2009年4月1日～ 2018年3月31日	産業能率大学・自由が丘産能短期大学通信教育学部において，心理学概論の講義をスクーリングにて担当した。
3) 論理療法	2009年4月1日～ 2018年3月31日	産業能率大学・自由が丘産能短期大学通信教育学部において，論理療法の期末レポート添削を行った。
4) アサーション	2009年4月1日～ 2018年3月31日	産業能率大学・自由が丘産能短期大学通信教育学部において，アサーションの期末レポートの出題および添削を行った。
5) 教育心理学	2017年4月1日～ 2022年3月31日	東洋大学文学部教育学科に所属し，教職課程の学生を対象に教育場で役立つ教育教心理学の理論と実践について講義を行った。その際，主体的で対話的な深い学習を促すアクティブラーニングの手法を取り入れ，理解の定着に努めた。
6) 教育相談	2017年4月1日～ 2022年3月31日	東洋大学文学部教育学科に所属し，教職課程の学生を対象に講義を行った。教育相談の理論と実践について，学校教育の中で活かすことができる心理学的視点から指導を行った。
7) 臨床心理学概論	2024年4月1日～ 2024年8月31日	法政大学現代福祉部において，臨床心理学の日常生活に活かすことのできる臨床心理学的視点を中心に，概論の講義を行った。
8) 心の健康教育の理論と実践(集中講義)	2024年8月	法政大学人間社会研究科において，心の健康教育における基礎的な理論に加え，母子保健および学校教育を中心とした実践例を紹介し，効果的な実践方法について検討した。
2 作成した教科書，教材		
1) 考える力，感じる力，行動する力を伸ばす子どもの感情表現ワークブック	2011年6月1日	幼児から小学校中学年を対象とした，感情リテラシーの発達を促し，自分と他人の気持ちに気づき，気持ちを調整し，関係づくりを育てるための37の取り組みを提案したワークブックを作成した。(分担執筆)
2) 言語力を育てる一言語心理学入門	2012年11月28日	言語心理学の基礎的な知見をふまえ，「言語力を育てる」ための視点を心理学的観点から紹介したテキスト・参考書の作成に従事した。そのうち，発達性読み書き障がい現状と支援策について論じた。(分担執筆)
3) イラスト版子どもの感情力をアップする本—自己肯定感を高める気持ちマネジメント 50—	2019年3月30日	幼児から小学校低学年を対象とした，感情リテラシーを身につけるためのワークブックを作成した。感情の発達段階に沿って，自分の気持ちに気づき，気持ちを調節し，他者との適切なコミュニケーションを促していくための50のワークを収録した。(分担執筆)
5) 小学生のためのソーシャルスキル・トレーニング—スマホ時代に必要人間関係の技術—	2019年3月	小学生を対象としたソーシャルスキル・トレーニング実践のための指導案を作成した。スキルを教える際のポイントや板書例についての記載，スキルの定着を図るために，授業内で利用できるワークシートや振り返りシートをスキルごとに収

6) みらいグロスコンテンツおよびアセスメント開発	2021年12月22日	録するなど、実践に活用しやすい構成となっている。(分担執筆) 小学校2・3年生を対象にSELをタブレットで学習する教材開発に従事した。(共同)
3 教育上の能力に関する大学等の評価 特になし		
4 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 「臨床心理士に必要な知識と求められる役割」	2009年11月	法政大学文学部心理学科特別講演講師として、臨床心理士に必要な知識と求められる役割について、教育領域における取り組みを中心に解説した。
2) 「中学生の問題とその支援のあり方」	2016年12月	法政大学文学部心理学科特別講演講師として、中学生の発達段階に特有の課題と、その支援のあり方についてスクールカウンセラーの立場から解説した。
5 その他 1) 日本版 WPPSI-III 知能検査の標準化 大六一志・渡辺弥生 日本文化科学社	2017年12月20日	日本版 WPPSI-III 知能検査標準化のための予備調査および本調査のデータ収集および、評価基準作成に従事した(2006年～2017年)。

職 務 上 の 実 績 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概要
1 資格, 免許 1) 高等学校教諭1種免許状(公民) 2) 中学校教諭第1種免許状(社会) 3) 司書教諭免許状 4) 臨床心理士資格 5) 公認心理師資格 6) 特別支援教育士資格 7) 学校心理士資格	2001年5月1日 2001年5月1日 2001年12月1日 2007年3月20日 2019年2月5日 2024年4月1日 2026年1月1日	平13高1種 第24号(埼玉県教育委員会) 平13中1種 第14号(埼玉県教育委員会) 第233392号(文部科学省) 第16376号(日本臨床心理士資格認定協会) 第15566号(文部科学省・厚生労働省) 登録番号24-044(特別支援教育士資格認定協会) 第297826号(学校心理士認定運営機構)
2 特許等 特になし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 「思春期の心理障害と臨床援助」	2009年6月	山梨学院大学附属高等学校にて、思春期に特有な心理的課題とその援助方法について、生徒および保護者を対象に講演を行った。
2) 「ソーシャルスキル・トレーニングの理論と実践」	2009年8月	山梨県新規採用教員研修会(山梨県教育委員会・総合教育センター)において、ソーシャルスキルの理論と、教育場面での実践の方法についてデモ授業を通して解説した。
3) 「ソーシャルスキル・トレーニングの理論と実際」	2009年10月	長野県木島平自主職員研修会(中野・下高井教育会館)において、ソーシャルスキルの理論と、教育場面での実践方法についてデモ授業を通して解説した。
4) 「はじめてのきょうだいクラス(マタニティクラス)」	2017年4月～ 2022年3月	栃木県小山市健康増進課母子保健事業(小山市役所)の一環として、第2子を迎えるご家庭に向けて、きょうだい児への声かけや関わり方についての講義を行った。
5) 「子どもの発達を支える視点」	2017年3月	栃木県小山市5歳児健康相談事業ネットワーク会議(小山市役所)において、ソーシャルスキルの視点から子どものポジティブな側面に焦点を当て、発達段階に則した声のかけ方について解説した。
6) 「子どものこころとことばの育ち—5歳児の発達ポイント—」	2018年3月	栃木県小山市5歳児健康相談事業ネットワーク会議(小山市役所)において、5歳児健康相談において幼児期のことばの発達をアセスメントする視点について解説した。

7) 「はじめての maternality クラス」	2018年4月～ 2022年3月	栃木県小山市健康増進課母子保健事業（小山市役所）の一環として、第1子を迎えるご家庭向けに、夜泣きや人見知りへの対応、および夫婦関係の変化等についてについて解説した。
8) 「親子のためのソーシャルスキル—感情の理解やコントロールに焦点を当てて—」	2018年11月	栃木県下野市立祇園小区育成会企画（下野市生涯学習センター）にて、感情に焦点を当てた子どものやる気をサポートする声かけの仕方について解説した。
9) 「聞く力を育てる関わり—ワーキングメモリーの考え方を中心に—」	2019年3月	栃木県小山市5歳児健康相談事業ネットワーク会議（小山市役所）において、ワーキングメモリーの考え方を活用し、日常の関わりを通して聞く力を育てる声かけの仕方について解説した。
10) 「子どもたちのポジティブな行動を促す掲示物の工夫—危機予防の視点から—」	2021年3月	栃木県小山市5歳児健康相談事業ネットワーク会議（小山市役所）において、ポジティブな視点から子どもたちに望ましい行動を伝える掲示物を用いた工夫について紹介した。
11) 「Father in Oyama～今日からできるママと赤ちゃんとの関わり方講座～」	2023年5月～ 2025年3月	栃木県小山市健康増進課母子保健事業（小山市役所）の一環として、新生児を迎える父親を対象とした家族との関わり方について講義を行った。

4 その他 特になし		
---------------	--	--

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. スクールカウンセラーによる学校危機予防を目指したソーシャル・エモーショナル・ラーニングの導入と効果	単著	2022年2月28日	風間書房	いじめや不登校といった対人関係に付随する学校危機を予防するために、予防教育の枠組みとして世界中で実践の広がっているソーシャル・エモーショナル・ラーニング（：以下 SEL）の視点を導入し、スクールカウンセラー（：以下 SC）の立場での実践のあり方について提案した。
2. 幼児・児童の発達心理学 コラム 2：「PTSD」（pp. 40・41）、 コラム 5：「言葉の障害（吃音）」 （pp. 90・91）、コラム 6：「遊戯療法」 （pp. 106・107）、コラム 10：「かん黙」 を担当（pp. 175・176）	共著 分担執筆	2011年3月30日	ナカニシヤ出版	幼児から児童の発達の多様な側面を、発達の流れに沿って学ぶ発達心理学のテキストにおいて、幼児期および児童期によく見られる問題行動についてコラムで解説した。 中澤 潤（監修）榎本淳子・中道圭人（編著） 荒木史代・垣花真一郎・小高佐友里・鈴木亜由美・鈴木伸子・中道直子・布施光代・松崎多千代・森野美央
3. 考える力、感じる力、行動する力を伸ばす子どもの感情表現ワークブック（再掲） ワーク 17：「どっちにしようか迷ったとき」、ワーク 18：「困ったときに何してあげる？」、ワーク 19：「立ち止まって考える」、ワーク 20：「ごめんねの気持ちを伝える」（pp. 112 - 127）を担当。	共著 分担執筆	2011年6月1日	明石書店	幼児から小学校中学年を対象とした、感情リテラシーの発達を促し、自分と他人の気持ちに気づき、気持ちを調整し、関係づくりを育てるための 37 の取り組みを提案したワークブックを作成した。 渡辺弥生（編著） 鳥羽美紀子・谷村圭介・宮本孝子・藤澤 文・小高佐友里・石井睦子・伊藤裕子・山田隆次・森嶋尚子
4. 言語力を育てる一言語心理学入門—（再掲） 14 章：「発達性読み書き障がいとその支援」（14-1 学校における心理教育的援助 pp. 194 - 196、14-4 発達性読み書き障がいとその支援 pp. 203 - 206）、15 章：「言語障がいの発達とその支援」（15-3 他の発達障がいの併存とその支援 pp. 216 - 217）を担当。	共著 分担執筆	2012 年 11 月 28 日	培風館	言語心理学の基礎的な知見をふまえ、「言語力を育てる」ということを心理学的観点から紹介したテキスト・参考書の作成に従事した。そのうち、発達性読み書き障がいの現状と支援策について論じた。 福田由紀（編著） 森島泰則・高橋 登・村本俊亮・土方裕子・白井章詞・野呂幾久子・久野雅樹・井上雅勝・大石衛聡・島田英昭・武田 篤・小高佐友里・猪原敬介・井関龍太・常深浩平
5. 10 代を育てるソーシャルスキル教育 改訂版—感情の理解やコントロールに焦点を当てて—	共著 分担執筆	2012年9月10日	北樹出版	感情に焦点を当てたソーシャルスキル教育のためのワークブックにおいて、スクールカウンセラーとして相談室で行ったソーシ

コラム：「スクールカウンセラーの相談室での取り組み」を担当（pp. 71）。				ヤルスキルの視点を用いた子どもたちへの声かけについて紹介した。 渡辺弥生・小林朋子（編著） <u>小高佐友里</u> ・齊藤教子・原田恵理子・星 雄一郎・松永博子・山田汐莉
6. 必携 生徒指導・教育相談—生徒理解，キャリア教育，そして学校危機予防まで— コラム：「スクールカウンセラーのつぶやき 子どもの心を伝える代弁者として」を担当（pp. 67）。	共著 分担 執筆	2018年4月25日	北樹出版	生徒指導・教育相談のための教職テキストにおいて，アドボカシー（代弁者）としてのスクールカウンセラーの役割について紹介した。 渡辺弥生・西山久子（編著） 原田恵理子・鎌田雅史・飯田順子・中井大介・榎本淳子・杉本希映・西野泰代・若本純子・本田真大・三宅幹子・藤枝静暁・小林朋子・納富恵子・清永（迫田）裕子・森嶋尚子・脇田哲郎・森 保之・ <u>小高佐友里</u> ・仲野 繁・藤野沙織・濱家徳子・岡安朋子・小林由美子
7. イラスト版子どもの感情力をアップする本—自己肯定感を高める気持ちマネジメント 50— （再掲） ワーク 16：「みんないろんな気持ち」（pp. 50 - 51），ワーク 37：「動いてリラックス（マインドフルネスを取り入れたワーク）」（pp. 94 - 95）を担当。	共著 分担 執筆	2019年3月30日	合同出版	幼児から小学校低学年を対象とした，感情リテラシーを身につけるためのワークブックを作成した。感情の発達段階に沿って，自分の気持ちに気づき，気持ちを調節し，他者との適切なコミュニケーションを促していくための50のワークを収録している。 渡辺弥生（監）木村愛子（編著） 小林朋子・岩崎佐保子・井上康子・森嶋尚子・村上智江子・大川真知子・鳥羽美紀子・社浦竜太・長谷川誉子・原田恵理子・川村真理子・河村 圭・平山佑一郎・藤野沙織・ <u>小高佐友里</u> ・草海由香里・田中裕貴・高橋あり・田代琴美・翁川千里
8. 小学生のためのソーシャルスキル・トレーニング—スマホ時代に必要な人間関係の技術—（再掲） ワーク 3：「感情を理解するスキル」（pp. 36 - 41），ワーク 13：「自分を大切に作るスキル；自尊心を育む関わり」（pp. 90 - 95）を担当。	共著 分担 執筆	2019年3月	明治図書	小学生を対象としたソーシャルスキル・トレーニング実践のための指導案を作成した。スキルを教える際のポイントや板書例についての記載，スキルの定着を図るために，授業内で利用できるワークシートや振り返りシートをスキルごとに収録するなど，実践に活用しやすい構成となっている。 渡辺弥生・藤枝静暁・飯田順子（編著） 谷村圭介・川崎知巳・染谷満里奈・ <u>小高佐友里</u> ・山田美紀・山田汐莉・宮本明日香・和氣淑江・大川真知子
9. 自己理解の心理学 第 10 章：「知能—IQ と EQ（EI）—」（pp. 95-103）を担当。	共著 分担 執筆	2022年10月25日	北樹出版	教養教育としての心理学の基礎的な理解を深めるため，心理学全般の領域のうち，特に，パーソナリティや発達に関する領域，青年期の大きな課題である恋愛，悩み，就職活動など実生活に関連した領域に焦点を当て解説した入門書。 武田明典（編著） 熊谷智博・泉水紀彦・大島朗生・角南なおみ・岸本琴恵・村瀬公胤・小山内秀和・新岡陽光・楠見 孝・山路 茜・小野田亮介・ <u>小高佐友里</u> ・吉野優香・河村明和・河村茂雄・越智啓太・武蔵由香・小菅清香
10. ソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）—非認知能力を育てる教育フレームワーク— コラム：「スクールカウンセラーと教員の協働による SEL 実践」（pp. 117-118）を担当。	共著 分担 執筆	2022年11月1日	福村出版	子どもの感情と社会性を育む国際的教育活動「ソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）」の概要・導入・アセスメント・日本における効果的な実践例を紹介。 渡辺弥生・小泉令三（編著） 石本雄真・ <u>小高佐友里</u> ・小林朋子・澤田葉月・滝澤 悠・西山久子・原田恵理子・松本有貴・宮崎 昭・薬師寺潤子・山田洋平・山根隆宏
11. 最新 生徒指導論 改訂版 第 11 章：コラム「SEL とは」（pp. 128-129），第 12 章コラム：「SST 実践のためのポイント」（pp. 138）を担当。	共著 分担 執筆	2024年6月20日	大学教育出版	生徒指導の目的，子どもの問題行動への対応，および学校・家庭・地域社会等の連携の在り方など生徒指導にかかわる基礎理論について，「生徒指導提要」（改訂）の内容と改訂ポイントを概略化してまとめ，それ

				らを補完する理論や実践を加えた教科書。 原田恵理子・森山賢一（編著） 古屋 真・田邊昭雄・後藤広太郎・齋藤美枝・小高佐友里・佐藤啓之
12. そのまま使えるパワポ心の健康教育	監著	2025年12月30日	少年写真新聞社	子どもの感情と社会性を育む国際的教育活動「ソーシャル・エモーショナル・ラーニング (SEL)」の概要・導入・アセスメント・日本における効果的な実践例を紹介。 渡辺弥生・小泉令三（編著） 石本雄真・小高佐友里・小林朋子・澤田葉月・滝澤 悠・西山久子・原田恵理子・松本有貴・宮崎 昭・薬師寺潤子・山田洋平・山根隆宏
13. 発達障害を子どもの特徴と 考え新しいかかわり方を見つけていく本 第1章：「自己肯定感がアップするかかわり方のポイント」ポイント5：できないことは手助けしよう (pp. 38-39), ポイント7: 感情をコントロールする力を育てよう (pp. 44-47) 第2章「日常生活スキルを伸ばす声かけ・かかわり方」ケース3：食事中に立ち上がったり遊び始めたりしてしま (pp. 78-85) 第4章：「感情のコントロールをうながす声かけ・かかわり方」(pp. 131-170)を担当。	共著 分担執筆	2026年2月13日	池田書店	子どもの特徴をポジティブに捉え直す「リフレーミング」の視点から親子が共に学び成長することを大切に、家庭や学校での具体的な支援法を「感情のコントロール」の視点から解説した。 藤枝静暁・梶原真衣・小高佐友里・藤間裕子・増南太志
(論文) 1. 高校生における「居場所」としての学校の認知	共著	2006年10月10日	法政大学文学部紀要, 53, 1 - 15.	高校生 351 名を対象に、学校で「居心地がよいと感じる場所」と「居心地が悪いと感じる場所」についてのイメージから、居場所は「物理的評価（力動性）」、「物理的評価（機能性）」、「関係性」の3因子から構成されていることが明らかとなった。また、イメージの描画をカテゴリー分類する作業を通して、学校における「居場所」のあり方を考察した。 渡辺弥生・小高佐友里
2. 発達性読み書き障害のアセスメントと指導	共著	2009年10月10日	法政大学文学部紀要, 59, 51 - 61.	学習障害の中核である、発達性読み書き障害、特に読み障害についての現状とそれらを説明する主要なモデルと、それに基づいたアセスメントおよび指導を概観し、対応を考察した。 福田由紀・小高佐友里
3. 逆さめがね着用実験の心理学基礎実験への導入—福祉・医療系心理学科への導入例の検討—	共著	2010年10月20日	法政大学文学部紀要, 61, 125 - 136.	福祉系学部での心理学基礎実験の授業において、視覚障害を理解するという観点を投入しつつ、「逆さめがね着用実験」を実験の1テーマに組み入れることの意義を検討した。体験することのインパクトが大きい実験テーマであることに加え、受講者の知的好奇心を刺激することができるテーマであることが確認された。 吉村浩一・小高佐友里
4. 発達性読み書き障がい周辺児に関する言語能力特性の検討	共著 査読あり	2015年10月30日	読書科学, 57, 47 - 54.	読み書き障がい周辺児の存在の有無および、その言語能力の特徴を検証することを目的とし、小学校1, 3, 5年生74名を対象に、「小学生の読み書きスクリーニング検査」, 「教師評定 (SEN チェック)」, 「標準抽象語理解力検査」, 「教研式 Reading-Test」, および「レーヴン色彩マトリクス検査」を実施した。その結果、参加者のうち15名の

				読み書き障がい周辺児の存在が確認され、健常群と比べて文法力の成績が低いことが明らかとなった。 矢口幸康・小高佐友里・梶井直親・福田由紀
5. 本邦における発達性読み書き障がい児・者の研究に関する展望—1999年1月から2009年7月までの論文を対象として—	共著	2017年3月30日	法政大学文学部紀要, 74, 95 - 118.	日本における発達性読み書き障がい児・者に対する1999年～2009年までの10年間に発行された文献のシステマティックレビューを通して、定義やアセスメントに使用されている検査の種類、アセスメントによって明らかとなった子どもたちの特性、実践されている指導法について、研究動向を整理した。 福田由紀・小高佐友里・矢口幸康
6. 学校現場における発達性読み書き障がい児・者へのアセスメントと指導—2009年8月から2016年7月までの論文を対象として—	単著	2018年10月31日	法政大学大学院紀要, 80, 75 - 90.	学校現場における児童生徒へのスクールカウンセラーと教員の協働を視野に、2009年から2016年までに国内で発表された論文を概観し、学校でできる発達性読み書き障害児・者へのアセスメントと指導のあり方について、有効な方法について考察した。
7. 中学校におけるスクールカウンセラーの予防教育への取り組み—SELの実践と効果—	単著 査読あり	2018年5月31日	教育実践学研究, 21, 27 - 50.	中学2年生129名を対象に、スクールカウンセラーと教員が協働により、感情への理解を深め適切に対処するスキルの獲得を目標としたソーシャル・エモーショナル・ラーニングプログラムを実施した。その結果、プログラム実施前後の感情知能得点にプラスの変化が見られ、生徒の感情理解や表出のあり方に示唆を与える有効な取り組みであったことが確認された。
8. 児童生徒の問題行動に対するスクールカウンセラーの予防的取り組み—現状と実現への課題—	単著	2018年10月31日	法政大学大学院紀要, 81, 29 - 35.	予防的取り組みの現状と、実践の際の課題について検討することを目的とし、SC34名を対象に質問紙調査を実施した。その結果、予防的実践への課題意識として「SC自身のスキル不足」、「物理的・心理的余裕のなさ」、「教員側の意識の低さ」の3因子が確認された。そのうち、SCの予防的実践を滞らせる一番の課題は、SC自身の知識やスキルへの不安にあることが示唆された。
9. スクールカウンセラーにとっての予防教育の意義—TAE (Thinking At the Edge) を用いた質的分析を通して—	単著	2019年10月31日	法政大学文学部紀要, 83, 17 - 29.	予防教育(授業)を実践した経験のあるSCへのインタビュー調査の内容を、TAE (Thinking At the Edge) を用いた分析によりSCが学校で予防教育を実践する意義を検討した。その結果、SCが児童生徒の前で授業をすることは、心理教育的援助を行うことに加え、教員との協働を通して、SC自身の自己効力感を高め、その後の活動の広がりや肯定的な作用を与えることが示唆された。
10. スクールカウンセラーの活動状況と予防につながる取り組みの検討	単著	2021年10月31日	法政大学大学院紀要, 87, 61 - 72.	スクールカウンセラーの活動状況と予防につながる取り組みについて現状把握するために質問紙調査を行った。その結果、スクールカウンセラーの活動は不登校を中心とした「二次・三次予防」への取り組みが中心となっている一方で、「一次予防」に貢献する取り組みは、「予防への期待」が高く評価されているながらも、活動自体が少ないことが明らかとなった。
11. 教員とスクールカウンセラーとの協働による中学2年生を対象としたソーシャル・エモーショナル・ラーニングの効果—より簡易で効果的な実践を目指して—	単著 査読あり	2025年3月31日	教育実践学研究, 28, 1-15.	中学2年生の全クラスを対象に、三段階の心理教育的援助サービスを想定した、ソーシャル・エモーショナル・ラーニングを実施した。プログラム実施前における教員研修の導入、プログラム内容の調整、強化および、維持・一般化方法の工夫等、より簡易で効果的な実施方法の検討を目指し、学年

				の担当教員とスクールカウンセラーが協働する方式で、全3回の授業を行った。その結果、実施前の自己評定が低かった生徒の得点が有意に上昇し、3ヶ月後も維持された。さらに、中間群および高群の生徒においても、肯定的な得点変化がみられ、プログラムの有効性が確認された。
(その他) (学会発表)				
1. 高校生の学校における「居場所」の認知	共同	2004年5月8日 ・9日	日本認知心理学会第2回大会発表論文集, 76. (ポスター発表)	高校生の「居場所」の認知について、SD法を用い「居心地のよい場所」と「居心地の悪い場所」の相違を検討した。 ○小高佐友里・渡辺弥生
2. 対人葛藤場面におけるソーシャルスキルの発達 (1)	共同	2005年9月17日 ・18日	日本教育心理学会47回総会発表論文集, 55. (ポスター発表)	小学生から高校生における対人葛藤場面でのソーシャルスキルの発達を検討した。本研究は、そのうちの小学生部分に当たるものである。 ○渡辺弥生・榎本淳子・小高佐友里
3. 対人葛藤場面におけるソーシャルスキルの発達 (2)	共同	2005年9月17日 ・18日	日本教育心理学会47回総会発表論文集, 56. (ポスター発表)	小学生から高校生における対人葛藤場面でのソーシャルスキルの発達を検討した。本研究は、そのうちの中学生部分に当たるものである。 ○榎本淳子・渡辺弥生・小高佐友里
4. 対人葛藤場面におけるソーシャルスキルの発達 (3)	共同	2005年9月17日 ・18日	日本教育心理学会47回総会発表論文集, 57. (ポスター発表)	小学生から高校生における対人葛藤場面でのソーシャルスキルの発達を検討した。本研究は、そのうちの高校生部分に当たるものである。 ○小高佐友里・渡辺弥生・榎本淳子
5. 高校生の「居場所」イメージについて	共同	2006年3月20日~22日	日本発達心理学会第17回大会発表論文集, 409. (ポスター発表)	高校生の「居場所」イメージについて、得られた描画をKJ法により分類し、それぞれの特徴について検討した。 ○小高佐友里・渡辺弥生
6. 小学生におけるソーシャルサポートとソーシャルスキルの関係	共同	2006年9月16日 ・9月17日	日本教育心理学会第48回総会発表論文集, 572. (ポスター発表)	小学生におけるソーシャルサポートとソーシャルスキルの関係について、質問紙調査の分析を通して考察した。 ○渡辺弥生・榎本淳子・小高佐友里
7. 中学生・高校生におけるソーシャルサポートとソーシャルスキルの関係	共同	2006年9月16日 ・9月17日	日本教育心理学会第48回総会発表論文集, 577. (ポスター発表)	中・高生におけるソーシャルサポートとソーシャルスキルの関係について、質問紙調査の分析を通して考察した。 ○小高佐友里・渡辺弥生・榎本淳子
8. 日本国内における発達性読み書き障がい研究のシステマティック・レビュー	共同	2010年9月17日~19日	認知科学会第27回大会発表論文集, 508 - 512. (ポスター発表)	1999年から2009年における発達性読み書き障害児・者を対象とした国内の研究について、システマティックレビューの手法を用い、診断や支援の際に引用している定義や理論等について動向を整理した。 ○福田由紀・矢口幸康・小高佐友里
9. 発達性読み書き障害児・者の能力に関するシステマティック・レビュー	共同	2010年7月	日本読書学会第54回大会発表資料集, 76-84. (口頭発表)	1999年から2009年における発達性読み書き障害児・者を対象とした国内の研究について、システマティックレビューの手法を用い、アセスメントに用いる検査や、支援の対象となる能力について整理した。 ○矢口幸康・小高佐友里・福田由紀
10. 擬似的発達性読み書き困難に関する言語能力特性の検討	共同	2011年7月24日~26日	日本教育心理学会第53回総会発表論文集, 389. (ポスター発表)	小学生74名を対象に、読み書き障がい周辺児の存在の有無、およびその言語能力の特徴を検証することを目的とし、調査を実施した。その結果、健常群と比べて文法力の成績が低い児童が一定数存在することが明らかとなった。 ○小高佐友里・矢口幸康・梶井直親・福田由紀

11. スクールカウンセラーの視点からの学校危機予防意識	共同	2017年9月16日・17日	日本学校心理学会第19回大会発表抄録集, 77. (ポスター発表)	予防知識や経験不足による不安が、学校現場での予防的実践を滞らせている可能性が示唆された。予防的実践をSCに期待するのであれば、SC自身の効力感を高める動機づけを高めると共に、簡易に実践できるプログラムの開発が求められる。 ○小高佐友里・渡辺弥生
12. 中学校におけるスクールカウンセラーの予防教育への取り組み—SEL (Social and Emotional Learning) がレジリエンスに与える影響について—	単独	2018年3月4日	日本SEL研究会第8回大会 (口頭発表)	中学2年生129名を対象に、感情への理解を深め適切に対処するスキルの獲得を目標とした、SELプログラムを実施した。その結果、プログラム実施前に比べ実施後のレジリエンス得点にプラスの変化が見られた。
13. The Effect of Social and Emotional Learning on the Emotional Intelligence of Japanese Junior High School Students	Single 査読あり	July 25th-28th, 2018	40th Annual Conference of the International School Psychology Association, PPA 0164 (Poster session) at Tokyo Seitoku University, Tokyo, Japan	中学2年生を対象に、感情への理解を深め適切に対処するスキルの獲得を目標としたSELプログラムの実践例と、効果について国際学会 (東京成徳大学で開催) にて実践報告を行った。
14. スクールカウンセラーが実践する予防教育の現状—インタビュー調査の分析を通して—	単独	2018年12月2日	教育実践学会第26回大会プログラム・論旨集, 28-29. (口頭発表)	予防的実践を行った経験のあるSC6名を対象に、インタビュー調査を実施した結果、全ての児童生徒に届く援助を行うためには、SCが子どもたちの前に立ち、直接的なやり取りをしたり、お便りを発行したりすることで間接的に相談室の様子を知らせる取り組みに、効果が期待できることが示唆された。
15. チーム学校を活かしたソーシャル・エモーショナル・ラーニング (SEL) 実践—スクールカウンセラーが関わる実践に焦点を当てて—	共同	2019年9月15日	日本教育心理学会第61回総会 (自主シンポジウム企画)	SELは子どもたちの学校不適応や問題行動の改善に加え、学力向上へのエビデンスも示されており、日本国内においても学校教育への導入が広がっている。「チームとしての学校」の在り方が期待される中で、SCと教員が連携し協働して行うSELの実践例を通し、効果的な実践の在り方や今後の課題について検討することを目的とした。 企画・司会：石本雄真 (鳥取大学) 話題提供：小高佐友里 (法政大学大学院)、佐竹真由子 (福岡県直方市立直方第二中学校)、石本志徳 (鳥取県教育委員会) 指定討論：青山郁子 (都留文科大学)
16. コロナ禍における教育実践の現状と課題	共同	2021年2月13日 午後3時~5時	教育実践学会 (シンポジウム形式のオンライン研修会)	コロナ禍における教育実践の現状と課題について、幼児から大学までの教育現場での取り組みのうち、スクールカウンセラーとして、中学生を対象に行った心理教育実践の様子を報告した。 コーディネーター：山口豊一 (聖徳大学) シンポジスト：神永典郎 (白百合女子大学)、小高佐友里 (栃木県教育委員会)、青木俊哉 (東京都練馬区橋戸小学校)、相場博明 (慶應義塾幼稚舎)
17. 通級でのソーシャル・エモーショナル・ラーニングの支援が生徒に与える影響	共同	2021年11月28日	教育実践学会第29回大会 (口頭発表)	高校通級におけるソーシャル・エモーショナル・ラーニングの実践とその効果について報告した。 ○薬師寺潤子・小高佐友里・渡辺弥生・原田恵理子
18. 日本の教育にSELを定着させるには	共同	2022年2月27日	日本SEL研究会第12回大会シンポジウム (シンポジスト)	日本の学校教育にSELを定着させていくための方策について、学校心理学における3段階の援助サービスの枠組みを参照しながら考察した。 シンポジスト：石隈利紀 (東京成徳大学)、渡辺弥生 (法政大学)、小高佐友里 (法政大学大学院)

				ライフスキル教育研究所), 澤田葉月 (法政大学大学院) 指定討論: 松本有希 (徳島文理大学), 小泉令三 (福岡教育大学) 司会進行: 宮崎 昭 (立正大学)
19. 高校通級を含む 1 学年全体を対象としたソーシャル・エモーショナル・ラーニングの効果の検討	共同	2022年8月10日~9月10日	日本教育心理学会第 64 回総会発表論文集, 361. (ポスター発表・オンライン)	高校通級を含む 1 学年全体で行った SEL のユニバーサル実践の効果と課題について検討した。 ○小高佐友里・柳 ルツ子・薬師寺潤子・原田恵理子・渡辺弥生
20. Effect of Social and Emotional Learning on the Emotional Intelligence of Japanese Junior High School Students: Secondary Prevention of COVID-19	Single 査読あり	June 2th-6, 2023	the 17th annual APNME Conference (Poster session) at Joetsu University of Education, Joetsu City in Japan.	中学校 2 年生を対象とし, コロナ禍において一次・二次的予防として行ったソーシャル・エモーショナル・ラーニングの実践の効果と課題について, アジア太平洋道徳教育ネットワーク (APNME) 第 17 回年次大会に参加し, ポスター発表を行った。
21. スクールカウンセラー志望者へのソーシャル・エモーショナル・ラーニングの取組みが援助者としての効力感に与える効果について	単独	2023年10月21日~10月30日	日本学校心理学会第 25 回大会 (ポスター発表・オンライン)	公認心理師および臨床心理士養成課程に学ぶ大学院生を対象に, 予防教育の基盤となりうる概念としてソーシャル・エモーショナル・ラーニングの考え方を知り, 理論に基づいた予防的介入の方法を習得するためのプログラムを実施した。SEL の理論を理解し, 実践方法を体験的に学ぶことで, 参加者自身の予防教育実践への自己効力感を高めることができるかについて検討した。
22. スクールカウンセラーによる中学 2 年生を対象としたソーシャル・エモーショナル・ラーニングの実践と効果ーコロナ禍における一次的・二次的援助サービスとしてー	単独	2023年12月17日	第 31 回教育実践学会 (ポスター発表)	中学 2 年生を対象とし, コロナ禍において一次・二次予防として行ったソーシャル・エモーショナル・ラーニングの実践の効果と課題について, 短期間でのより効果的な介入のあり方について検討した。
23. Integrating Information-Communication Technology into Social-Emotional Learning in Middle Childhood	共同	July 21th-26th, 2024	International Congress of Psychology (Prague, the Czech Republic) Symposium	小学生 79 名を対象に行った, ICT を活用したソーシャル・エモーショナル・ラーニングの有効性と課題について, 国際心理学会 (ICP) にてシンポジウムを開催した。 ○Oshio, K., Sugimoto, K., Aoyama, I., Harada, E., Kotaka, S., Watanabe, S.
24. 社会性と感情の学習 (SEL) の小・中・高等学校における実践 (1) —一次的援助サービスとしての SEL 実践—	共同	2024年9月16日	日本教育心理学会第 66 回総会自主シンポジウム企画 (話題提供) アクトシティ 浜松	社会性と情動の学習 (SEL) を一次的援助サービスと位置づけ, 小学校, 中学校, 高等学校における SEL の実践的展開について話題提供し, これからの発達支持的生徒指導の在り方について意見交換を行った。 企画・司会: 山口豊一 (聖徳大学) 企画・話題提供: 原田恵理子 (東京情報大学), 話題提供: 藤枝静暁 (埼玉学園大学), 小高佐友里 (東京成徳大学) 指定討論: 西山久子 (福岡教育大学)
25. 通級を含む高校 1 学年全体を対象とした SEL 実践に関する効果検証ー社会性及び学校適応感に焦点を当ててー	共同	2024年9月22日	日本学校心理学会第 26 回大会 (ポスター発表)	高校通級を含む 1 学年全体で行ったソーシャル・エモーショナル・ラーニングのユニバーサル実践の効果と課題について, 社会性と学校適応感に焦点を当てて検討を行った。生徒の実態に即した介入は, 概ね有効であったことが示された。

				○張 愛子・柳 ルツ子・ <u>小高佐友里</u> ・原田恵理子・渡辺弥生
26. 高等学校におけるユニバーサルな SEL 実践の効果	共同	2024年12月21日	教育実践学会第32回大会(口頭発表)	年間を通じた高等学校における1学年全体を対象としたソーシャル・エモーショナル・ラーニング実践を行った。生徒の実態に即してプログラムをカスタマイズした介入により、生徒の社会性と学校適応感の向上に寄与する成果が得られた。 ○張 愛子・柳 ルツ子・ <u>小高佐友里</u> ・原田恵理子・渡辺弥生
27. インタラクティブ・フォーカシングによる傾聴訓練の試み—大学生を対象としたワークショップの効果—	共同	2025年9月6日	日本心理臨床学会第44回大会発表論文集, 123 (口頭発表) 神戸コンベンションセンター	大学生を対象にインタラクティブ・フォーカシングを用いた傾聴訓練を実施し、その効果を検討した。その結果、他者との対人距離の肯定的な変化に加え、日常的フォーカシング態度に変化が確認され、傾聴訓練の有効性が示唆された。 ○ <u>小高佐友里</u> ・前田満寿美・末武康弘
28. 高校生における社会情動的スキル尺度の検討	共同	2025年9月7日	日本心理学会第89回大会(ポスター発表) 東北学院大学	高校生を対象とした、社会情動的スキル尺度の作成を試みた。その結果、高校生では2因子構造が抽出された。同様の項目で行った小学生における結果との比較から、社会情動的スキルの因子構造が発達段階によって異なる可能性が示唆された。 ○杉本希映・ <u>小高佐友里</u> ・原田恵理子・青山郁子・渡辺弥生・押尾恵吾
(外部資金獲得状況) 1. 公益財団法人上廣倫理財団令和3年度研究助成採択	単独	2022年3月1日~ 2024年2月末		SCによる学校危機予防を目指したSELの導入と効果を研究課題とし、現場での活用が容易で、高い効果の得られる実践方法について検討することを目標とした。

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。